

令和6年度 江戸川区立南葛西第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	『自立と貢献』 学校教育は、学校で完結しない。児童が将来、一社会人として立派に自立し、国や郷土、自分の周囲に貢献できる資質を身に付けさせる場である。そのことを目指して南葛西第二小学校の教育を推進する。		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力保障」で信頼される学校づくり</li> <li>「文武両道」質の高い「知・徳・体」の実現</li> <li>「学力保障」の責任を果たし、結果を出す</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査質問用紙から学習意欲に対して意欲的であると回答した児童が7割以上いた。</li> <li>体力向上の一環として、30分間外遊びや、朝の時間のマラソンを通して活発に運動する児童の姿を見ることができた。</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の学力向上の目標は「東京都の平均に達する」ということであるが、ここ数年、都の平均付近の傾向にある。学力向上の手立てとして放課後補習教室の継続や、南二小（放課後の教員による補習）の際に、6年生が前学年に学習をサポートしに行く取り組みを本年度から始めた。</li> </ul>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	〇授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・放課後補習教室への登録率100%			B	前・後期でテストの結果から人選を行っている。学習カルテで自己評価をさせている。	B	習熟が不足している児童への手立てがはっきりして良い。	A	授業時間において88%が肯定的な回答をした。登録率100%を達成した。	A	数値目標が達成された。	今年度と同様に取り組みを継続していく。
		【補充学習の充実】 ・週3回の全校一斉朝学習 ・民託による週1回放課後補習教室 ・学年による週1回放課後補習教室	・標準学力調査の達成率が80%以上			A	全学年で朝学習の内容を揃え、基礎学力（読・漢・算）をバランス良く高めるようにしている。南二道場で週1回30分、自身の定着度に合わせた学習を始めている。6年生の学習サポーターも支援に参加している。	A	南二道場で6年生がサポートに入って勉強を教えたり、学習の環境を整えたりすることで6年生の意欲が向上し、他の学年の児童のやる気が上がっていることが感じられる。	A	授業時間の確保及び児童の学力定着に努めているかの項目について88%の肯定的な回答を得た。区学力調査で5、6年の算数は達成率80%を超えている。	A	令和6年度12月の学力テストで区平均を上回る成績を記録した。6年生児童が下級生に教えることで学力の向上が見られた。良い施策だった。	南二道場を継続していくことに加え、ICT機器の活用と絡めて学習を深めていく。
	〇読書科の更なる充実	・読書を通じた探究学習の授業の実施や12時間以上の読書科の授業を全学年で実施。	・全学年で実施			B	毎学期読書科の授業に取り組み、成果物を評価している。	B	あゆみを通し発信しているが、より明確に読書科の内容を提示できると良い。	B	読書好きな児童が育っているかの項目に関しては51%が肯定的な回答をしており、ICT機器の活用と絡めた改善が必要。	B	デジタルツールによる学習形態が一般化していることから読書好きの育成に工夫を期待。	読書科の活動の中で、発達段階に合わせて本を使った調べ学習を進めていく。
体力の向上	〇個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・毎週30分間の全校運動遊びの実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が体力を高めようとしていると回答			B	全校エンジョイタイムで時間を決めて運動を行った。高学年がモチベーション高く取り組むことができるかが課題。	B	体力テストの成績向上のためにも積極的に取り入れていくのが良いのではないかと。更に、体力テストの時期に合わせた取り組みができると効果的。	B	体力向上を図る取組を学校全体で行っているかの項目は75%が肯定的な回答をしており、11%の保護者がわからないと回答しており、体力テスト等で効果的な外部指導員の導入を検討する。	B	活動テーマが「エンジョイ」である以上、体力テストの結果のみにこだわる必要はない。	体力テスト向上のために普段の体育の学習から体力テストの動きを取り入れた活動を全学年で進めていく。
		・6月に主要項目をなかよし班（きょうだい学年）で実施	・体力テスト全項目96のうち都平均以上が50%以上			C	なかよし班の体力テストで記録をし合い、1年生は6年生にサポートしてもらうことで意欲をもって取り組めた。	B	目標数値には届かなかったため次年度体力テストの前に主に低い数値に絞って対策をすることで改善に努める。	B	上記より、体力テスト等で興学年での教え合いや協力の様子をホームページ等で掲載することで理解を深めていく。都の平均を43.8%の児童が達成した	B	目標に近い成長を達成したので問題はない。次回に更に期待している。	今年度の活動を継続し、更に体力テストの結果向上のための取り組みを新しく進める。
		・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・80%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加			B	継続的に取り組んで様々な技に挑戦できた。	B	学年での教え合いの時間や、なかよし班での教え合いがあると更に技能面が高まるのではないかと。	A	マラソン大会や朝マラソンなどの活動を行っているため、75%の保護者が体力向上に取り組んだと肯定的な回答をした。分からないの回答が11%あり、周知が必要である。	A	縄跳び週間を定期的に設けられた。技の向上にも児童同士の教え合いなどが見られた。	今年度、縄跳びの出前授業を実施し、児童の運動に対する興味関心が深まったので継続する。
実現に向けた教育の推進 共生社会の推進	〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施			A	組織改革で特別支援の委員会を立ち上げ組織的な取り組みができた。	B	特別な配慮を要する児童に対して職員の数少ないながら工夫して合理的な配慮を最大限行っていた。	B	保護者が相談しやすい体制があるかという項目に関して、27%がわからないと回答し、相談を普段から受け付けているという周知を行う必要がある。	B	保護者の理解は当事者を抱える保護者にしか理解されにくいので難しいが、施策を素直に進めてほしい。	新年度に保護者会などで周知を行ったり、1年生から周知を行ったりする。
	〇エンカレッジルーム（特別支援教室）の活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・全学年の保護者へのエンカレッジルームを紹介			C	必要としている児童の保護者はそれがどのようなものなのか伝わっているが、その他の児童の保護者には意図が伝わりにくい。	B	来室した児童に何を目的とし、何をさせるかを明確にしてから来室を促す必要を感じた。	B	上記の理由より、児童にも周知し、活動を継続的に進めていく。	B	児童にも周知を図ることは望ましい。支援に関わる内容は当事者でないと難しいが継続を望む。	取り組みを継続していく。
	〇副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施			B	副籍交流に関しては必要に応じ行っている。	B	異年齢交流が積極的にでき、低学年が高学年の様子を見て、モデルとしているようだった。	B	必要に応じ行っていることをその都度周知を行う。	B	学校の方針と同意見。	取り組みを継続していく。

